様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２３ 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｋ０１０７０

研究課題名（和文）時間／空間の変容の分析による現代ドイツの歴史的特性の解明

研究課題名（英文）Elucidation of historical characteristics of contemporary Germany through analysis of temporal/spatial transformation

研究代表者
高橋　秀寿（TAKAHASHI, HIDETOSHI）

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：７０３０９０９５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,100,000円

研究成果の概要（和文）：　三年間にドイツにおける反ユダヤ主義と「過去の克服」の関係をテーマの対象にして現代社会における時間／空間の変容の問題を考察した。まず、これまでの反ユダヤ主義論を整理し、ナチス時代における反ユダヤ主義の特徴、それに対する民衆の反応を研究した。それをふまえ、ドイツの戦後に反ユダヤ主義が「過去の克服」の展開とともにどのように展開されたのかを分析した。そのさいに、1980年代以降に時間／空間の大きな展開があって、反ユダヤ主義の役割も大きく変化したことを明らかにした。この研究成果は一冊の研究書としてまとめ、2023年度中に人文書院より刊行される予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　現在、ポピュリズムが世界的現象として注目されている。ドイツでもポピュリズム政党「ドイツのための選択肢」が連邦議会で定着しているが、この現象は1980年代における時間／空間の転換と関連しているが、このようなポピュリズム現象の歴史的特徴は、それと類似した現象である反ユダヤ主義を検討することで明らかになると確信している。つまりこの研究は、単なるドイツ現代史の分析やポピュリズムの一般的な考察にとどまるものではなく、近代史における反ユダヤ主義の歴史的変遷を研究することによって、現代社会の特質を明らかにするものである。

研究成果の概要（英文）：For three years, I focused on the relationship between anti-Semitism in Germany and "overcoming the past", and considered the problem of time/space transformation in modern society. First, I arranged anti-Semitism theories and studied the characteristics of anti-Semitism in the Nazi era and the public reaction to it. Based on this, I analyzed how anti-Semitism developed after the war in Germany along with the development of "overcoming the past." In doing so, I clarified that the role of anti-Semitism has changed greatly as a result of the major developments in time and space since the 1980s. The results of this research will be compiled into a research book, which is scheduled to be published by Jinbunshoin in 2023.

研究分野：ドイツ現代史

キーワード：時間／空間　現代社会　反ユダヤ主義　過去の克服

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景
研究開始当初の背景であるが、本研究の着想に至った経緯と準備状況 2013 年度に科学研究費補助金の基盤研究(C)「グローバリゼーションと植民地主義の観点からの主権と空間の歴史的分析」が採択されたことにより、この間に研究代表者が代表となって研究会を開催してきた。この研究会ではとくに領土問題や内国植民、難民問題、主権理論などを韓国やロシア、ドイツ、スコットランド、北海道、沖縄などを対象として検討してきた。この基盤研究の成果はすでに『立命館国際言語文化研究』28 巻 4 号（2017 年）の特集「主権と空間」において公表している。この基盤研究において、グローバリゼーションによる空間の変容を分析することが重要な課題であることが自覚されていった。さらに、その分析を進めるなかで時間の次元も含めるべきであることも実感されていった。こうすることで、現代社会の問題を時間／空間現象として捉え、現在社会の歴史的な特質も解明できるのではないかという着想に至った。

２．研究の目的
　本研究は、ドイツにおける時間／空間の形成と国民国家の変容を歴史的視点から考察し、そこからドイツ現代社会の特質を明らかにすることに目的がある。具体的には、現代社会の現象を解明するために、おもにドイツ現代史を対象として、時間／空間と国民国家の関係およびその変容の歴史をグローバリゼーションの視点から問うことで、現代社会の歴史的な特質を解明する。そして、その研究領域をドイツ以外の欧米諸国にまで広げながら、ポピュリズムのような世界的な現象の本質を分析する。その際に、グローバリゼーションが国境を超えて時間／空間を拡大していくだけではなく、それを閉鎖し、保持する傾向が顕著になってくる時期とも重なることに着目し、グローバリゼーションの現象の本質がこれまでのナショナル・ローカルな時間／空間の枠組みの破壊ではなく、その再編成であり、それに伴って国民国家そのものが再編成されていることを、ドイツを研究領域にして明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法
　本研究は研究目的を達成するために、とくに反ユダヤ主義の歴史研究に向かった。というのも、拙著『ホロコーストと戦後ドイツ』（岩波書店、2017 年）で明らかにしたように、時間／空間が転換したと思われる同じ時期に、同じ現象として、1980 年以降にそれまでの「フランス革命モデル」に代わって、「ホロコースト・モデル」が形成・浸透したからである。以前の「フランス革命」モデルでは「能動的犠牲者」が歴史的主役として国民形成を行い、「遅れた」過去を克服して、国民共同体の現在と未来を構築していくことが歴史的使命であったが、いまや「ホロコースト・モデル」で主役に躍り出ていた「受動的犠牲者」が歴史的な国民的主体として構成され、「破局」の未来を過去と現在において回避する使命のなかで国民形成が試みられるようになった。この「ホロコースト」と直接かかわる反ユダヤ主義が 1980 年代以前、とくにナチス時代にどのように形成され、それは 1980 年代以降にどのように変化していったのかを分析することで、現代社会の大きな特徴である時間／空間の形成と国民国家の変容を歴史的視点から考察できると考えた。４．研究成果
　この研究の成果は、三年間の研究の要点をまとめたものとして、拙稿「反ユダヤ主義とは何か？――ドイツにおけるユダヤ人表象」『立命館言語文化研究』34 巻 2 号（2022 年 12 月）195-223 頁にてすでに公表した。さらに、以下の目次の内容で単著『反ユダヤ主義と「過去の克服」――戦後ドイツ刻印はいかにユダヤ人と向き合ったのか』の原稿をすでに書き上げ、2023 年度中に人文書院より刊行予定である。
はじめに
第１章　「過去の克服」と反ユダヤ主義論
　第１節　「過去の克服」
　第２節　反ユダヤ主義論
第２章　ナチス期・終戦期の反ユダヤ主義とドイツ国民
　第１節　ナチス期におけるドイツ人の反ユダヤ主義経験
　第２節　終戦後におけるユダヤ人とドイツ国民
　第３章　終戦後の反ユダヤ主義
第３章　終戦後の反ユダヤ主義
　第１節　ユダヤ人 DP（難民）と戦後ドイツ国民
　第２節　DP 問題と反ユダヤ主義
　第３節　賠償問題と反ユダヤ主義
第４章　「過去の克服」の生成と反ユダヤ主義
　第１節　「過去の克服」の意識化
　第２節　「過去の克服」の成立
　第３節　もう一つの「過去の克服」――「六八年」
　第４節　ヴィリー・ブラントの跪き
第５章　戦後反ユダヤ主義の構造変化

第１節　反ユダヤ主義とユダヤ人表象
第２節　「過去の克服」と二次的反ユダヤ主義
第３節　反ユダヤ主義のコミュニケーション構造
第６章　「現代」の反ユダヤ主義と「過去の克服」
第１節　構造変化の諸相
第２節　反ユダヤ主義の政治化
終わりに

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 高橋秀寿	４．巻 274号
２．論文標題 書評 石田勇治・川喜田敦子編『ナチズム・ホロコーストと戦後ドイツ』	５．発行年 2022年
３．雑誌名 西洋史学（2022年）	６．最初と最後の頁 171-173
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 高橋秀寿	４．巻 14号
２．論文標題 ポピュリズム現象の歴史社会学的考察――ドイツを事例に	５．発行年 2022年
３．雑誌名 愛知県立大学日本文化学部論集	６．最初と最後の頁 39-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 高橋秀寿	４．巻 34巻2号
２．論文標題 反ユダヤ主義とは何か？――ドイツにおけるユダヤ人表象	５．発行年 2022年
３．雑誌名 立命館言語文化研究	６．最初と最後の頁 195-223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 高橋秀寿	４．巻 8月23日号
２．論文標題 書評「ベティーナ・シュタングネト著『エルサレム＜以前＞のアイヒマン』」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 公明新聞	６．最初と最後の頁 4－4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高橋秀寿	4．巻 8月号
2．論文標題 書評「水野博子『戦後オーストリアにおける犠牲者ナショナリズム－戦争とナチズムの記憶をめぐって－』」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 歴史学研究	6．最初と最後の頁 61－64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Hidetoshi Takahashi	4．巻 1
2．論文標題 Die nationale Repraesentation in Berlin um die Wende zum 20. Jahrhundert.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Yuko Nakama(Hg.), Aufbruch der deutschen Moderne und die Kunst in Berlin, Kyoto 2020.	6．最初と最後の頁 115-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高橋秀寿	4．巻 3月14日号
2．論文標題 書評　アネッテ・ヘス著『ドイツ亭』	5．発行年 2020年
3．雑誌名 産経新聞	6．最初と最後の頁 11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 高橋秀寿
2．発表標題 『人種主義の歴史』をめぐって－ドイツ史からの応答
3．学会等名 第32回西日本ドイツ現代史学会
4．発表年 2023年

１．発表者名 高橋秀寿
２．発表標題 愛知県立大学公開シンポジウム いま世界で起きていること－ポピュリズムと向き合う
３．学会等名 愛知県立大学
４．発表年 2022年

１．発表者名 高橋秀寿
２．発表標題 コメント「ドイツ統一30年」
３．学会等名 ドイツ現代史研究会
４．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関